

フィリピン片隅の小さな子ども図書館
『リブロ・シェラマドレ開館』 25周年記念誌
本とともに歩んだ25年



(改修前のマガタ図書館の前で)

フィリピンに本を送る会の活動
NPO シニアの再チャレンジを支援する会

Contents / 目次

1. ご挨拶 – 25周年に寄せて
2. 活動の歩み – 1995年から現在まで
3. 紙芝居コンクールへの挑戦
4. 現地図書館の今と改修計画
5. 図書館を数字で見る
6. 日本国内の支援活動
 - ・あむあむ販売会
 - ・ニット教室
 - ・チャリティコンサート
 - ・クラウドファンディング
 - ・順天高校の支援
7. 現地からの声
8. 図書館で育った若者たちの声
9. 支援者からのメッセージ
10. これからの図書館が目指すもの
11. 25年の活動をふりかえって
12. 後書き

詩 私たちの図書館「シェラマドレ」 レア・チカ

私たちの図書館は 辺びで遠い山の中
あなたが もしこの図書館へやってきたら
そりやあびっくりするでしょう！
物語や 歴史など世界中のいろいろな本がどっさりと
取り揃えてあるのだから
私たちの図書館をしっかりとよく見てね
勉強したい気持ちはカトトウボ（少数民族）だって
みな同じ だからこの図書館はだれだって
勉強したいみんなの役に立つ

ああ なんてすてきな贈物 私たちの図書館「シェラマドレ」
ありがとうございます！

ありがとうございます
私たちは知っています

骨の折れるつらい仕事 --
コトバを替え デザインを加え
一頁一頁 一冊一冊 心をこめて
私たちみんなが読めるように変身した本
大きな愛と知識にあふれた沢山の本
これが私たちの図書館「シェラマドレ」

レア・チカは自作の詩
で感謝を綴ります。



(自作の詩を読む レア・チカ)



(絵画コンクール1位の絵「私たちの図書館」)

ご挨拶 – 25周年に寄せて



(金子代表)

『リブロ・シェラマドレ』が開館してから25年、この節目を迎えることができましたことを、心より嬉しく思います。この活動は、遠く離れたフィリピンの山岳地帯に住む子どもたちへ、本の喜びを届けたいという思いから始まりました。電気もなく、学校すら十分でなかった地域で、本を手にした子どもたちの輝く笑顔は、私たちに大きな力を与えてくれました。

これまで支えてくださった多くの皆さんに深く感謝申し上げます。寄付やボランティア活動、翻訳、イベント開催など、一つひとつのご支援が積み重なり、今日の図書館と子どもたちの成長へつながっています。また、現地の人々が自ら図書館を運営し、次世代に知識を伝えていく姿は、活動が地域の大切な財産となった証でもあります。

25年の歩みを振り返りながら、私たちは今後も本を通して学びと希望を届け続けます。この記念誌が、支援くださった皆さんへの感謝と、未来への新たな一歩を共有する機会となることを願っています。

フィリピンに本を送る会の活動

代表 金子多美江



(建設されたマンガハン第1図書館)

活動の歩み – 1995 年から現在まで

1. 1995 年～2015 年 海外教育支援協会（JOES）の時代

フィリピン・シエラマドレ山脈の奥地に住む人々との出会いから活動が始まりました。日本の教会や支援者の協力により、識字学校を建設し、日本の絵本にタガログ語訳を貼って子どもたちが読み始めました。会員の柳井武氏らが現地に滞在し、地域の人々と協力して 2000 年に「リブロ・シエラマドレ」図書館が完成。その後、識字学校跡に第 2 図書館ができました。



(JOES 初めての現地訪問)

2. 2015 年～2020 年 金子多美江さん応援団の時代

JOES の解散後、金子多美江さんは「フィリピンに本を送る会」を立ち上げました。立教セカンドステージ大学（略称 RSSC）の仲間たちが応援団として加わり、絵本づくりや資金集め、日用品の収集・発送を継続しました。地域住民だけの力で第 3 図書館も建設されました。子どもたちの笑顔を支えるために困難を乗り越え、本を「世界への窓」として届け続けてきました。



(金子さんと多美江さん応援団)

3. 2020 年～現在 NPO 「シニアの再チャレンジ」としての活動

2020 年より NPO 法人シニアの再チャレンジ（さいちやれ）に合流し、法人事業として活動を継続。現地図書館の老朽化への対応として、マガタ図書館の改修を実現し、ラトン・マンガハン図書館の改修計画も進めています。また国内では「あむあむ」のニット販売、チャリティコンサート、クラウドファンディング、順天高校の若い世代の参加など支援の輪が広がっています。翻訳支援や ICT の活用も進み、活動の幅はますます広がっています。



(順天高校の皆様と)

紙芝居コンクールへの挑戦

2007年、金子多美江さんの提案をきっかけに、子どもたちが自作の紙芝居で日本の紙芝居コンクールに挑戦しました。「国際的？すごい！」という驚きと共に始まった挑戦は、初参加で『マガタ物語』が入賞する成果につながりました。以後も毎年欠かさず作品を応募し、2012年には『わたし、本大好き』が大賞「上地ちづ子賞」を受賞するなど、11年連続で入賞を果たしました。さらに2021年には『マティアスと月』がジュニアの部優秀賞を獲得しました。

(マガタ物語：2007年作品)



マガタの人々は土地を奪われ放浪の末、この地にたどり着きました。若者ココが先頭に立ち、作物を育て村を築きます。やがてココを失った妻メリーが「ガタ」という食べ物を見つけ、人々は力を取り戻し子どもにも恵まれました。その実りから村は「マ・ガタ」と呼ばれるようになり、今も自然と共に暮らしています。

https://youtu.be/dtzGHwtwAHk?si=PQ6_jfw3WdYqd



(わたし本大好き 2012年作品)



エイプリルちゃんは足が不自由ながら本が大好きな小学六年生。妹と危険な道や吊り橋を越えてマガタ図書館に通い、夢中で本を読みました。雨期には行けなくなりましたが、特に貸し出された本に喜び、乾期には再び仲間と通い本の世界を楽しみました。「わたし、本、大好き！」の言葉に、彼女の強い思いと図書館の大切さが表れています。

<https://youtu.be/-Dfu6hA3M1s?si=eMmNHh5AqKscEuz3>



*URL 又は QR コードから作品の YOUTUBE 動画を見ることができます。

(マティアスと月 2021年作品)



マティアスは元気な少年ですが、弟ダムイに意地悪をして母に叱られてばかり。ある夜「月に行きたい」と願い、魔法の葉に乗って月へ行きます。誰にも叱られずおもちゃを独り占めして幸せでしたが、やがて暗闇と孤独におびえ、家族を恋しく思いました。目覚めると夢であり、再び家族と過ごせることに安堵。以後は弟にも優しくなり、家族の大切さを学びました。

<https://youtu.be/k4gKkP9W1Dg>



* URL 又は QR コードから作品の YOUTUBE 動画を見ることができます。

現地の子どもたちは、タガログ語で脚本を作り、仲間たちと力を合わせて作品を完成させています。日本語訳を加えた作品は、日本の審査員や観客にも伝わり、子どもたちの真剣さや創造力が高く評価されてきました。たとえ入賞を逃しても、その努力と経験自体が大きな財産となり、子どもたちの学びや自信へつながっています。



(作品制作する子どもたち)



(制作作品をもつマガタの子どもたち)

紙芝居コンクールへの参加は、図書館活動の一環として子どもたちの想像力や表現力を育み、読書を通じて培った学びを形にする貴重な機会となっています。

現地図書館の今と改修計画

図書館の建設から 25 年が経過し、現地の施設は老朽化が進んでいます。マガタ図書館では改修工事が実施され、子どもたちが安心して利用できる空間が整いました。しかし、ラトン図書館やマンガハン図書館は床の剥離や白蟻被害が深刻で、早急な対応が求められています。

(① 改修前のマガタ第 2 図書館)



(② 建設資材は船に乗せて)



(③ 建設中のマガタ第 2 図書館)



(④ 改修されたマガタ第 2 図書館)



総費用、日本円 1,430,000YEN でマガタ第二図書館のリフォームは完成了しました。

(収入) * 通貨単位はフィリピンペソ (PHP)

・当活動から	508,773
・タナイ市長から	15,000
・サン・ダミアーノグループから	12,000 (フランスの医療支援団体)
・SPM から	10,500
総収入	546,273

(支出)

・ステイール書棚	125,000
・屋根工事・壁工事費用	353,337
・塗装工事	19,325
・3 図書館用の床マット	7,000
総支出	504,662

残高 41,611 PHP

* この残高は机と椅子の購入に使用

* 総支出の日本円換算は上記どおり 1,430,000 円 (1PHP=2.6174YEN)

2026年1月にはラトン図書館の改修をクラウドファンディングにより実現します。さらに2027年にはマンガハン図書館の改修を助成金の取得によって行う予定です。これらの計画は、地域の子どもたちが本に触れ、学びの場を守り続けるための重要な取り組みです。

(現在のラトン第
3図書館)



(床には大きな
ヒビ割れが)



マガタ第2図書館同様に、老朽化が進むラトン第3図書館は、床のひび割れ・絵本の白蟻被害等、安全安心に利用するには、問題のあるレベルになっています。よって、図書館の改修費用を集めることで2025年9月クラウドファンディングを実施しています。ご支援頂ける方は下記よりご支援願います。

老朽化の進んだラトン第三図書館のリフォームを実現したい

miyazakihiroyuki ソ・シャルグッド

現在の支援額
0円

目標金額1,500,000円

支援者数
0人

残り
39日

https://camp-fire.jp/projects/866242/view?utm_campaign=cp_po_share_c_msg_mypage_projects_show



図書館は単なる読書の場にとどまらず、地域にとっての文化的拠点であり、台風や洪水の際には安全な避難所としての役割も果たします。そして、教育と未来をつなぐ希望の象徴でもあります。今回の改修を通じて、子どもたちにより良い学びの環境を届けることを目指しています。

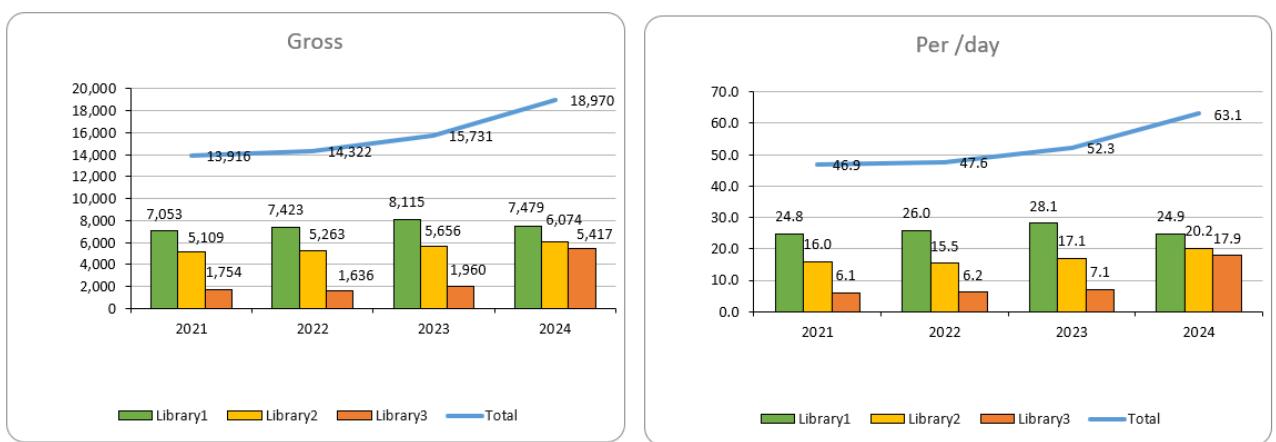
図書館を数字で見る

図書館は地域の子どもたちや住民にとって、学びと交流の場として大きな役割を果たしてきました。利用者数や貸出冊数の推移を見ると、年々図書館への関心と需要が高まっていることがわかります。

・**利用者数**：年間の延べ利用者は1万9千人にのぼり、図書館の利用者は年々増加の傾向にあります。

・**イベント参加**：読み聞かせ会や紙芝居発表会などのイベントには、毎回多くの子どもや保護者が参加し、図書館が地域コミュニティの中心として機能していることを示しています。

これらのデータからも、図書館が単なる本の利用場所だけではなく、学習支援・文化交流・地域活性化の核となっていることが明らかです。



(当表は現地 SPM スタッフ Mariz Mendez がエクセルを活用し集計したものです)

日本国内の支援活動

日本国内でも、多くの支援活動が継続的に行われています。これらの活動は図書館の運営を支えるだけでなく、地域の人々を結びつけ、新たな参加者を迎える重要な役割を果たしています。

・あむあむ販売会

編み物ボランティアの皆さんによるニット作品の販売会は、活動資金を支える大きな柱となっています。長年培われた経験と技術から生み出される作品は、多くの方々に喜ばれるとともに、フィリピンの子どもたちへ本を届ける力にもなっています。こうした取り組みを通じて、たくさんのファンも生まれました。



・ニット教室

都内で開催される教室では、寄付で集まった毛糸を活用し、メンバーが協力して作品を制作。新たな仲間の育成や交流の場としても機能しています。



・チャリティコンサート

音楽を通じた支援も大切な柱です。演奏を楽しみながら寄付を募ることで、文化活動と支援が一体となり、多くの方々に活動を知っていただく機会となっています。

フィリピンに本をおくる会の活動支援
チャリティ コンサート
Trio Minstrels

海を越えて繋がる支援を
コンサーの収益でフィリピンの供たい方に
お届けします

2025年
9.15 Mon. (祝日)

開演 14:00
開場 13:15

自由学園 明日館講堂
東京都世田谷区砧2-12-11

チケット
一般4,000円・学生3,000円(全席自由)
チケットは9月1日より販売いたします

プログラム
前半 ピアニッシモ ミニストレル
・ベートーベン「在立て屋カカドゥ」の主題による変奏曲とロンドOp.121a
・ラフマニノフ「悲愴」(20分)

後半 スザンナ・ピアノ三重奏曲 ト短調

出演
オーレン・オリソン・大野健之 子エロ・小川剛一郎 ピアノ：北住淳
（チケットの販売開始）9月1日(土)

セニアの声チャレンジを盛りまる会 <http://seiner-rechleben.jikken-on-web.jp/seinerwebshop@gmail.com>

ルイ・ルードルフ <http://www.wisdom.com/seine-music-mail/seine-music@gmail.com>

チケット料金: <https://agepig.jp/> (チケット料金: 800円)

会場: 東京・世田谷区砧2-12-11 明日館
チケット料金: 4,000円(全席自由)、3,000円(学生)

・順天高校の皆様の支援

生徒たちが荷物の仕分けや発送準備を手伝い、若い世代が直接活動に触れることで、国際交流やボランティア精神を学ぶ機会となっています。

これらの国内活動は、フィリピン現地の図書館を支える基盤であり、支援者と利用者の笑顔をつなぐ大切な架け橋です。



(支援いただき順天高校の皆様)

① 文化祭で集めていただいた寄贈絵本

- ・2024年の順天高校文化祭は9月28日～29日の二日間開催され、地域から310冊の絵本を寄贈いただきました。

(案内頂いた生徒さんと)



(順天高校に集まった絵本)



② フィリピン絵本等の発送作業

- ・2025年6月の絵本の発送作業は、順天高校（北区王子）において絵本等の発送準備を行いました。今まで、数時間かかっていた作業は1時間弱で終え



ることができ、若い人のパワーを実感する作業となりました。当日の様子は下記動画よりご覧いただけます。

<https://youtu.be/xA9KwFhZDHc>



③ 順天高校の皆様による本作り支援

- ・順天高校の皆様には日本語絵本の英訳翻訳支援（タガログ語翻訳は、まず英語に翻訳してからタガログ語に翻訳する作業の方がスムーズの為）とタガログ語の本作り支援を担当いただき、2024年から大きな戦力として活動いただいています。



(翻訳作業する順天高校の皆様)

現地からの声

SPM メンバー

ソロモン・メンデス（SPM 代表）



1986 年、畠山八郎さん、金子仁郎さん、木野慶三さんらの支援で、ケソン州ジェネラル・ナカールに SPA が誕生しました。小さな図書館も併設されましたが、軍の弾圧や物資没収に苦しみました。それでも支援者の抗議で教育の場を守り、今では卒業生が教師や校長になっています。

1995 年にはリサール州マガタ地区へ活動が広がり、「MAGBASA KITA（読もう）」という学習冊子や多美江さんが運んだ本により、本の喜びが広がりました。やがてマガタ図書館が誕生し、2007 年の紙芝居コンクールでは優勝を果たし、地域の誇りとなりました。図書館は今も寄贈や読書指導、紙芝居活動を通じて子どもたちの成長を支えています。差別や困難を乗り越えた活動の歩みは「地域の遺産」であり、今後も子どもたちの夢と希望を育む力であり続けるでしょう。

アナリザ・N・アギラー（SPM 図書館管理責任者）



私はアナリザ・N・アギラー、39 歳、2児の母で、22 年間 SPM-KMII のボランティアとして活動しています。2003 年に職員、そして母として図書館に関わり始め、子どもと夫を持ちながらも活動を続けました。息子のレンズ・ポールも図書館で育ち、小学校を卒業しました。困難に直面しても諦めませんでした。土地を主張する人

Annaliza Aguilar が図書館を閉鎖したときも区役所に訴え、結果として「マンガハン第 1 図書館」が誕生しました。

図書館は「マガタ物語」「オンドイがやってきて」「わたし本大好き」など

の紙芝居作品を生み出し、子どもたちに人気の物語も多く生まれました。これらは成功の証であり、今も活動を続けられる喜びを実感しています。

マリズ・メンデス（SPM リエゾン担当）



マガタ図書館の改修を見て胸がいっぱいです。1999年に建設した当時、資材を肩に担ぎ、仲間と川を渡って運んだ日々を思い出します。疲れると砂にブロックを埋め、翌日また運んだこともあります。あの時私は8歳、アイリーンは10歳でした。最初に読んだ日本の絵本は「Nasaan si Mary?（メアリーはどこ？）」

です。

10代の頃は絵を描くのが好きで、子どもたちに絵を教えました。2011年には、私が指導した子どもたちが紙芝居コンクールに参加し、ジャニスさんと私は日本で作品を発表する機会も得ました。

その後、小学校教師となり、今はフランスで暮らしていますが、図書館で得た経験は私の原点です。



この図書館は、私や地域の子どもたちにとってかけがえのない宝物です。

ジャニス・エンブレ（SPM スタッフ）



マガタ図書館の保護者ジャニスです。25周年を迎えたことを嬉しく思い、皆さまのご支援に深く感謝します。奨学生から司書となり、金子ご夫妻をはじめ多くの方々に支えられました。村初の高校進学者として紙芝居制作も指導し、日本訪問や受賞経験を経て、今後も図書館を守り続けていきます。

SPM ボランティア

アイリーン・DC・タパド（35歳・子ども5人の母／ボランティア司書）



夫の収入が不安定なため図書館ボランティアに参加しました。当初は掃除だけでも役に立てればと思っていたが、図書館で活動できることは幸運でした。子どもを連れて来ることもあり、一緒に学ぶ姿に喜びを感じています。図書館は子どもたちに読み聞かせや絵を描く機会を与え、少しづつ成長していく姿を見るのが楽しみです。必要な道具が揃えば、さらに子どもたちの力を伸ばすことができると感じています。

アナリン・DC・マルケス（42歳／ボランティア司書）



5人の子を育てながら SPM の職員として働き、貝殻細工やビーズでアクセサリーを作る技術を学びました。収入は多くありませんが食料や衣類の購入に役立ち、本当に助かっています。図書館では子どもたちと聖書や物語を分かち合い、笑顔に励まされています。ブレスレットやキーホルダー販売も職業訓練から生まれた成果で、今では観光客向けに日常的に制作しています。教育を受けられなかった自分が今子どもたちに教えられることが、大きな喜びです。

ジョベリン・オカンポ（ボランティア司書）



私はジョベリン・オカンポです。SPM のボランティアとして活動を続けています。図書館では子どもたちと触れ合い、読み聞かせや本の整理を担当しています。日々の活動を通じて、子どもたちの笑顔や成長に触れられることが大きな喜びです。これからも地域の子どもたちのために尽力し、図書館をより良い場所にしていきたいと思います。

子どもたちの声

アイリッシュ・S・メンドーサ（11歳）



私はアイリッシュです。図書館に行くのがとても好きです。本を読むと楽しいだけでなく、新しいことを学べます。図書館で友だちと過ごす時間も大切です。支援してくださる皆さんに感謝しています。

レクシル・メイ・M・サンティラン（12歳）



図書館は私にとって特別な場所です。本を読むことで学校の勉強も分かりやすくなりました。週末や放課後に友だちと一緒に図書館に行けるのが楽しみです。支えてくれる皆さん、ありがとうございます。

シャイナ・デロス・レイエス



こんにちは！私はシャイナです。図書館のおかげでたくさんの本を読むことができ、勉強にも役立っています。ここでの経験は将来の夢にもつながっています。図書館を支えてくださる皆さんに心から感謝します。

アイシャ・アビオ（11年生）



私はアイシャです。図書館があることで、私たちは快適に本を読むことができます。特に辞書や物語の本から多くを学びました。子ども時代に図書館で読書ができたことは、私にとって大切な宝物です。ありがとうございます。

(*アイシャ・アビオは2021年紙芝居作品「マティアスと月」の作者です)

クリスティン・ジョイ・ベア



私はクリスティンです。図書館で本を読んで学ぶことで、勉強や生活がとても豊かになりました。見守り係として関わることもでき、少しでも地域に役立てるのが嬉しいです。支援してくださる皆さんに感謝します。

アンジェル・N・オリオ（小学2年生）



私はアンジェルです。図書館で本を読むのが大好きです。たくさんの本のおかげで学校の勉強も楽しくなりました。図書館があることをとても幸せに思います。

図書館で育った若者たちの声

アベル・ミトラ（22歳・看護学士課程卒）



私は山岳地帯で育ち、学業と生活の両立に苦労しました。皿洗いやウェイターなど3つの仕事を掛け持ちし、空腹や睡眠不足と闘いながら勉強を続けました。図書館は学習や調べ物だけでなく、遅れている子どもたちへの指導の場でもありました。現在は看護師として地域で働き、今後は若者の言語・読解力支援や図書館の充実に尽力したいと考えています。支援者の皆様に心から感謝しています。



リムエル・テヴェス（31歳・企業勤務）



現在は民間企業でメンテナンスオフィサーを務めています。1998年当時のマガタの図書館や絵本は、遠隔地で学ぶ大きな助けでした。今後はSNSなどを活用した情報発信や、環境美化の経験を生かして図書館に貢献したいと考えています。さらに先住民族の文化を展示する「中央博物館」として発展する可能性もあると思います。SPMと日本の支援者との協力が続くことを願っています。

サルド・パテンテ（25歳・銀行員）



私は幼少期から図書館を利用し、本に親しむことで語学力が伸びました。SPM のリテラシー・ランチプログラムを通じて学び、学業を修了。現在は銀行でテラーとして働き、経営学士を取得しました。図書館と金子さんの支援がなければ、今の自分はありません。学習と食事の両面で支えられた経験が、今の生活の礎となっています。



ジョアン・デラ・クルス（21歳・教育実習生）



大学卒業を控え、教育実習を行っています。図書館は私の創造力や探究心を育み、絵本や紙芝居を通じて言語教育や共感力を培いました。今後は図書館ボランティアや若者の指導、文学イベントの企画を通して、地域の発展に貢献したいと考えています。

キンバリー・E・デセナ（元ベストリーダー・教師）



幼少期、図書館は唯一の自由な場所で、本を通じて語学力や学力が高まりました。その成果で奨学金を得て大学に進学し、教師になる夢を実現しました。現在は地域で子どもたちの夢を支える立場にあり、図書館は「明るい未来への道具」だと強く感じています。

支援者からのメッセージ

金子仁郎（元 JOES 理事長）

「山奥に文化の花を咲かせた地域の宝」



図書館開館 25 周年を心から祝福します。道路も電気もない山奥に誕生した図書館は、幼児から高齢者、兵士までも集う知識の窓となりました。三世代にわたる現地スタッフの自走的な努力は、まさに文化の花を咲かせた証です。喜びと苦しみを共にし、学び合う姿に深い感動を覚えます。

小川由子（JOES 初期からの支援者）

「山岳民族の希望を育んだ活動」



1995 年より寄付を続け、2003 年に娘が現地を訪問し活動の成果を実感しました。図書館や学校建設、水道や農業支援は人々に希望と自立を与えました。紙芝居での受賞や日本での発表は感動的で、これからも教育が広がることを願い支援を続けます。

清水真枝（長年の支援者）

「心に残り続ける現地での出会い」



学生時代に現地を訪れ、人々の温かさに感銘を受けました。来日した現地スタッフを自宅に迎えた経験も忘れられません。図書館が 25 年根づき続けているのは、支援者と現地の努力の成果です。関わることを幸せに感じています。



(* マリズ・ジャニスを迎えての食事会。)

佐波美代子（JOES 初期からの支援者）

「家族の縁でつながったフィリピン」

30年にわたる交流に感謝します。息子が高校生のとき現地ボランティアを経験し、楽しく交流しました。戦時中の縁や留学生受け入れなど、不思議なつながりを感じています。活動が今後も続くことを心より願っています。

佐波雄一郎（元 JOES 学生ボランティア）

「若き日の経験が今の自分を形づくる」



大学時代、現地で村人と交流し、文化に触れました。ジプニー移動やフェスタの経験は忘れられません。その後フィリピン大学に留学し、今の仕事にも役立っています。若い頃の学びは人生の方向を決める力となりました。

諸岡弘（JPIC 読書アドバイザー）

「生の声で語り合う大切さ」



長年本を送り続けた皆様に敬意を表します。絵本は子どもに力と心の支えを与えます。84歳となった今も読み聞かせを続け、語りかけることの大切さを実感しています。子どもたちが幸せに暮らさせることを願っています。

中口尚子（東ティモール図書館活動）

「兄弟のような二つの図書館」



2010年の訪問を機に東ティモールで図書館を設立。地域運営に移行し、子どもたちに喜ばれています。再訪したシエラマドレ図書館も発展しており、互いが地域を支える存在であり続けることを願います。

坪野谷雅之（RSSC 顧問）

「理念を受け継ぎ、組織で支える」



2011年に金子多美江さんと出会い、その理念に感銘を受けました。2020年から「さいちやれ」との連携で組織的支援が始まり、3つの図書館が地域の宝となりました。25年の積み重ねを高く評価し、今後も支援が続くことを願います。

小谷みどり（RSSC 特任教授）

「恩師からの便りとフィリピン図書館への思い」



先日現地を訪ね、道路整備やリゾート開発の進展に驚きました。日本では「シニア食堂」を始め、孤立死を減らす活動を続けています。夫の遺志を継ぎ寄付金で「ひだの文庫」を設立し、図書館に彩りを添えました。交流と助言は今も続いています。



(*マンガハン図書館の奥に設置されたひだの文庫。)

(金子さん補足コメント)

小谷みどり先生は RSSC 特任教授であり、私たちの恩師です。フィリピン留学やホームステイを通じて交流を深められ、当会にも多くの助言をくださいました。ご主人の遺志を継いで寄付金で本を購入し、「ひだの文庫」として図書館に残してくださっています。ご主人の母上とともに二度現地を訪れ、子どもたちと交流されるとともに、現地の友人を頼りに選書や購入を指導し、スタッフの力を育てられました。現在も幅広くご活躍され、弱き人々に向けられる先生のまなざしは、私たちの学びの源となっています。

江森隆子（紙芝居文化推進協議会元事務局）

「子ども図書館から生まれる紙芝居の力」



2007 年以来、毎年多くの作品が応募されており、その内容は日本の作品にも劣りません。障害を抱える子どもや台風被害を描いた作品などには、困難を生き抜く姿が刻まれ、参加者の心を深く動かしてきました。紙芝居は、子どもたちにとってまさに希望の灯火となっています。

代田知子（一般社団法人日本子どもの本研究会会長）

「フィリピンの子どもたちに本を読む喜びを届けているすばらしい人たちへ」



「フィリピンに本を送る会」25 周年、心よりお祝い申し上げます。退職後も活動を続けたいとの思いから図書館を設立された金子多美江さんの情熱と行動力に、深く感銘を受けました。2017 年には活動が「実践・研究賞・大賞」に選ばれ、2020 年には「さいちやれ活動」と合流して継続の基盤を築かれました。現地では育った若者たちが図書館運営を担い、本を通じて子どもたちの世界が広がっています。今後の歩みを心から応援いたします。

大戸澄子（RSSC「金子多美江さん応援団」）

「本は世界に開く窓」



J OES の解散後、たった一人で本を送り続ける姿を見過ごすことはできず、2015 年に大学内に応援団を結成し、支援を続けてきました。本は子どもたちに希望と学びを与え、彼らはやがて支える側へと成長しています。今、私たちは若い世代の参加と人材育成の重要性を強く感じています。

石井佳子（RSSC「金子多美江さん応援団」）

「3 つの図書館と子どもたちの笑顔」



2015 年と 2018 年に現地を訪れ、子どもたちが夢中で本を読む姿に感動しました。小さなラトン第 3 図書館も地域にとって大切な宝物です。支援者と現地の思いが形になった成果だと実感しました。

大明小学校教え子一同（此上美智子）

「先生から学んだ絵本のあたたかさ」



45 年前に金子先生から学んだ絵本の温もりを、支援活動を通じて今度はフィリピンの子どもたちに届けています。図書館が心の宝物として未永く続くことを願っています。

(* 金子先生の前で“T”の文字を持つのが私です。)

ミレナ・ドミンゴ（タガログ語翻訳支援者）

「翻訳を通じて子どもたちと成長」



私が来日したのは 49 年前。筑波大や外語大で学び、銀行勤務の傍ら朝日カルチャーでタガログ語を教えていました。そこで出会った金子多美江さんから、日本の絵本を翻訳してフィリピンの村に送っていると聞き、協力を申し出ました。以後、勤務後や休日に喫茶店や金子さんの家で翻訳を重ね、1 日に 5~6 冊訳すこともありました。清書や印刷、切り貼りを経て本となり、多くの日本人の支援で子どもたちへ届けられました。

2016 年には現地を訪れ、厳しい生活環境に驚き、日本の人々がそこで学校や図書館を築いてきた努力に深い感銘を受けました。子どもたちは本を通して力を伸ばし、やがて自ら紙芝居を作り、日本のコンクールでも毎年入賞しました。その成長を多美江さんと共に喜び、訳しながら涙したこともあります。

近年は身内の不幸が続き翻訳を続けにくい状況ですが、活動が継承団体の努力により未来へ受け継がれていくことを願っています。

落合ゼラ（タガログ語翻訳支援者）

「八王子からの支援活動」



新聞記事で金子夫妻の活動を知ったことをきっかけに、ゼラさんたち「フィリピン人妻の会」は参加しました。現地の要望に応え 30 卷の紙芝居翻訳に挑み、親に尋ねながら仕上げるほど熱心に取り組みました。紙芝居は大人気で、すぐに使い古されるほどでした。

さらに舞踊や歌、寸劇を披露する催しや、著名なフィリピンのバイオリングループの演奏会も企画し、収益はすべて活動資金に充てられました。その後ゼラさん自身も翻訳の担い手となり、帰郷の折に一人で現地図書館を訪れ、子どもたちと交流。「こんな場所まで本を届けてくれる日本人に心から感謝しています。この仕事を続けてください」と語りました。

木野恵以子（故・木野慶三氏夫人）

「夫の遺志と教育への思い」



夫は音楽教師として何度もフィリピンを訪れ、子どもたちに音楽を教えました。「食べ物がなければ勉強はできない」と食の支援にも尽力しました。25周年を夫も天から喜んでいることでしょう。

(＊リコーダーを教える木野さんと現地の子どもたち。)



合田洋樹（現地と日本をつなぐ支援者）

「教育が地域を変える力」



マガタを訪れて7年、若者たちは教師や看護師などとして活躍しています。図書館は地域発展の起点となり、差別を受けていた人々に希望を与えました。教育の力の大きさを改めて実感しています。

高橋公恵大宮あっぷるハウスオーナー）

「手編みの温もりとフィリピンへの想い」



10年にわたる販売会は18回を数え、資金支援の一部を担ってきました。作品を手にした喜びは、子どもたちの笑顔と重なります。活動を支えた金子先生と名古屋理事長に敬意を表します。「あむあむ」の活動が末永く続き、共感の輪が広がることを願っています。

あむあむの会 メンバー

相田満里子・今村典子・大久保三重子・坪松あけみ・根岸孝子・藤江光子



それぞれが編み物を通じて参加し、作品を通じて子どもたちに笑顔を届けています。売上が絵本の購入や活動資金につながることを誇りに思い、一針一針心を込めて活動を続けています。

(*金子代表（下段左）・名古屋理事長（上段左）と一緒にあむあむの皆様）

今は都合により活動から離れられたメンバーを貢献に感謝したくご紹介します。
三角早苗・伊丹ひろ・棟方春江（故）・阿武照子・池節子・藤崎栄子・田中優子

嶋田壽美（ニット教室講師）

「手編みの広がりと継続の力」



リブロ・シェラマドレ建設 25 周年、心よりお祝い申し上げます。2020 年に都内で教室を立ち上げ、販売会も拡大しました。寄贈された糸を活用し、仲間と共に日々作品作りに励んでいます。

小さな一步から始まった活動が四半世紀にわたり続いたのは継続の力の賜物です。変化の激しい時代にあっても、子どもたちの教育環境が守られることを願い、これからも交流を大切にしていきます。

これからの図書館が目指すもの

① 安全で快適な図書館環境の実現

老朽化が進んでいたラトン図書館では屋根・床・壁の改修を行い、雨漏りや白蟻被害を解消し、安全に利用できる環境を整えます。これにより来館者数が平均 30%以上増加することを目指します。

② 図書の更新と学習意欲の向上

破損・劣化した図書を新しい翻訳付き絵本へ更新し、子どもたちが読書を楽しむ姿を増やします。利用者アンケートでは「読書時間が増えた」と答える子どもが 70%以上となることを目指します。

③ 識字教育の継続と支援体制の強化

翻訳絵本の提供と図書環境の改善を通じて識字教育の基盤を維持・強化します。SPM との協力により蔵書管理や施設維持が安定し、現地での自主運営力をさらに高めます。

④ 次世代担い手の育成と意識変化

改修や整備に関わった現地スタッフ・ボランティアに「自分たちで図書館を守る」意識が芽生え、活動継続の基盤を築きます。また、日本の高校生や市民にとっても国際協力への関心を深め、支援の輪の広がりをめざします。

こうした施設・図書・人材の三位一体の改善により、子どもたちが安心して学べる場を再構築し、教育支援の成果を地域に定着させてまいります。

25年の活動をふりかえって

フィリピンに本をおくる会の活動代表 金子多美江

フィリピンの山岳地の小さな村々は、毎年の台風や洪水で家や作物が流される厳しい環境にありながら、住民は粘り強く立ち上がってきました。さらに山岳少数民族として差別にも直面し、17世紀にマゼラン遠征軍から逃れ山奥で暮らした人々の子孫であると伝えられています。こうした自然や社会の困難に抗う歴史は子どもたちの紙芝居にも描かれ、そのたくましさが図書館活動を支える力となっています。

30年前、初めて現地を訪れ、電気も学校もない中で本を読む子どもたちに心を動かされ、本を届ける決意をしました。呼びかけから5年後にマンガハンに最初の図書館が完成し、マガタやマリバイにも広がりました。子どもたちは「学問は一生の財産」と信じ、学びを続け運営にも関わるようになり、その姿に共鳴して日本でも支援の輪が広がりました。

当初は辞書を片手に翻訳していましたが、今では翻訳機や通信環境の整備で活動は大きく進展しました。年金から寄付をくださる方、周囲に呼びかける方、災害時に駆けつける方など、多くの支援者の善意に支えられてきました。資金難や後継者不足など解散の危機もありましたが、その都度助けに恵まれ、順天高校との出会いも未来を支える大きな力となりました。今年6月には生徒の協力で450冊が短時間で梱包され、現地に届けられました。子どもたちは夢中で読み、笑顔を広げ、交流は二国の絆を深めています。

交流を重ねる中で現地の人々とは家族のような関係が築かれました。分断や戦争が続く今、小さな活動も平和の礎になると信じています。校長先生の「一生かかっても得られない本を運んでくれた。幸せを届けてくれた」という言葉は支援者すべてへの贈り物でした。私たちは本の配達人であり、幸せの配達人でもありました。25周年を迎えて、これまでの協力に感謝するとともに、この活動が守られ未来へと引き継がれていくことを願っています。

協力団体一覧

- ・ 海外教育支援協会（JOES）有志
- ・ 日本子どもの本研究会
- ・ 紙芝居文化推進協議会
- ・ 出版文化産業振興財団
- ・ RSSC（立教セカンドステージ大学）卒業生 有志
- ・ 東京学芸大学（小・中・大）有志
- ・ 都立北野高校 有志
- ・ 順天高校（先生・有志）
- ・ 立教女学院（小・中・高・短大）有志
- ・ 大明小学校・仰高小学校・巣鴨小学校・鹿浜小学校 有志
- ・ らくだ出版 有志
- ・ 大日本絵画 有志
- ・ 「あむあむ」の会
- ・ カフェあっぷるはうす
- ・ ギャラリーびーんず
- ・ 現地訪問参加者の皆さん
- ・ むすびめの会 有志

後書き

NPO シニアの再チャレンジを支援する会 理事長 名古屋美鳥



このたび『リブロ・シェラマドレ』開館 25 周年記念誌「本とともに歩んだ 25 年」を発行しました。本活動は JOES 時代から代表・金子多美江さんの思いと多くの支援に支えられて続いてきましたが、国内では支援者の高齢化が進み継続は容易ではありません。その中で 2020 年に NPO 法人シニアの再チャレンジと合流し、助成金獲得や若い世代の参加が広がりました。現地では翻訳絵本をきっかけに近隣小学校からも支援要請が寄せられ、活動は拡大しています。一方、25 年を経て施設の老朽化が課題で、マガタ図書館は 2025 年に改修を終えましたが、ラトンは 2026 年にクラウドファンディングで、マンガハンは 2027 年に助成金での改修を目指しています。これまでのご支援に感謝するとともに、今後も変わらぬご協力をお願い申し上げます。

(編集後記) 事務局 宮崎 弘行



この記念誌の発行にあたり、多くの皆さまから心のこもった寄稿文や写真をご提供いただきました。限られた紙面の都合で、お一人お一人の文章をすべて掲載できず、数名分をまとめて編集・要約させていただいた箇所もございます。また、一部の写真は公開されているものを活用させていただきました。

本来であれば事前にご確認いただくべきところですが、発行までの限られた時間の中で省略させていただきました。どうぞ温かくご理解ください。

この記念誌が完成できたのは、寄稿してくださった皆さま、写真を提供してくださった方々、そして日頃から活動を支えてくださる多くの方々のおかげです。心より感謝申し上げます。25 年の歩みを共に振り返りながら、これからも子どもたちに本を届ける活動を続けていければと願っています。



フィリピンに本を送る会の活動 NPO シニアの再チャレンジを支援する会

〒171-0044 東京都豊島区千早4丁目38番5号 ホリモトビル101

HP :<https://senior-rechallenge.jimdoweb.com>

E-mail: seniorrechallenge2@gmail.com

2025年9月1日発刊 (800)